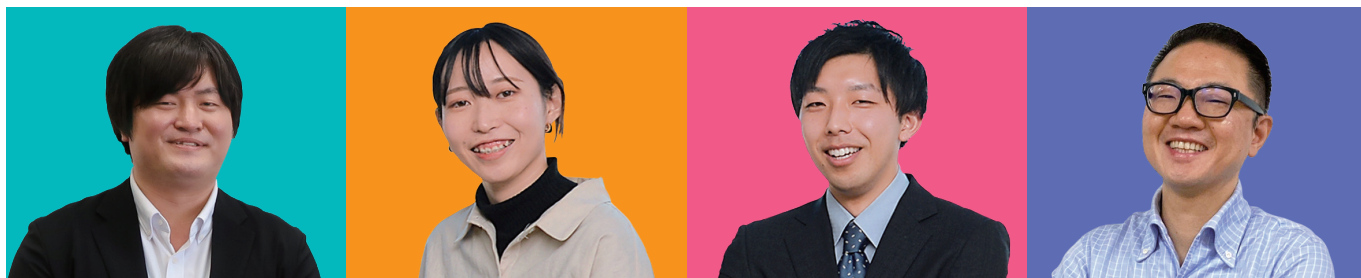


株主通信 第59期

上半期報告書 2022年4月1日～2022年9月30日



“一番欲しい” を最速で



Contents

ご挨拶	1	お客様事例	7
中期経営計画進捗状況	3	サステナビリティへの取り組み	9
当社の強み	5		

JBCC
holdings

JBCCホールディングス株式会社
証券コード:9889 (東証プライム市場 情報・通信業)

事業構造の変革が着実に進み
増収増益となりました。

今後もグループが一体となり
持続的な成長を目指してまいります。

代表取締役社長
東上 征司



「HARMONIZE (ハーモナイズ)」で お客様のDXを実現

当社は、お客様のデジタルトランスフォーメーション(DX)を実現するため、お客様の業務やシステム環境に合った最適なITの活用をご提案し、運用を含めて継続的なサービスをご提供しております。

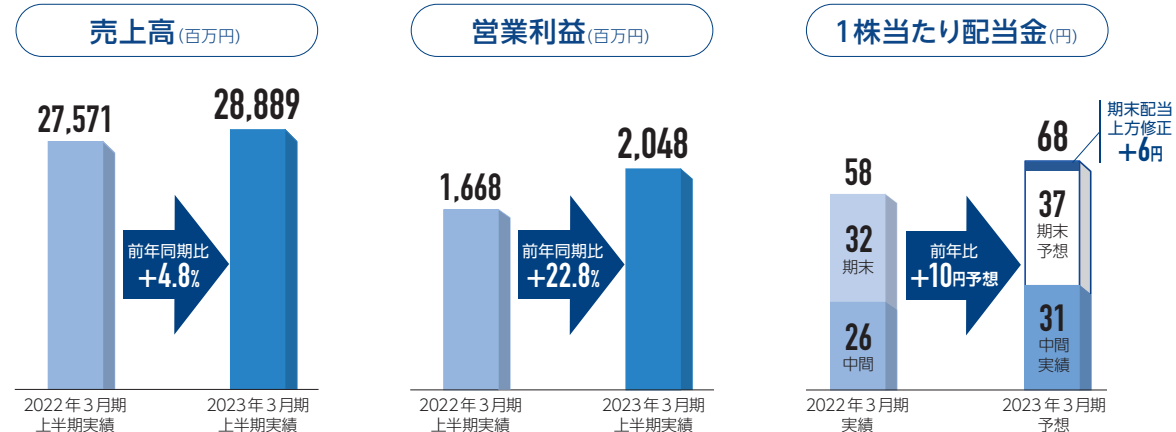
昨年度よりスタートした中期経営計画「HARMONIZE 2023」(2022年3月期～2024年3月期)においては、トータルITサービス「HARMONIZE」を発表し、その中心的なソリューション&サービスである超高速開発、クラウド、セキュリティ、クラウドデータ連携で、多くのお客様のDXを実現してまいりました。「HARMONIZE」2年目となる当連結会計年度は、1年目の実績と成果を礎に、さらなる躍進を目

指してグループ各社が一体となり、提案や営業力、技術力の強化に取り組んでおります。

ストックビジネスが大きく伸長し、 上半期は増収増益を達成

当上半期は、ストックビジネスであるクラウド、セキュリティが大きく伸長いたしました。今後の安定した収益となるストックビジネスの拡大に、引き続き注力してまいります。また、昨今多くのユーザー企業において現場主導によるローコード/ノーコード開発が活用される中、当社は他社に先駆けて一早く超高速開発(独自の開発手法と開発ツールの活用による高速システム開発)を提供してまいりました。その実績と品質、開発スピードが高く評価され、超高

決算ハイライト



速開発の受注が前年同期比+60%と拡大いたしました。グループ内のSI(システム開発)を行う全ての事業会社で、従来の開発手法から利益率の高い超高速開発へとスキルシフトを行い、受注拡大に向け開発体制を強化しております。

これらの取り組みの結果、当上半期の業績は、売上高28,889百万円(前年同期比+4.8%)、営業利益2,048百万円(前年同期比+22.8%)となりました。トップラインである売上高の成長を目指し、事業構造の変革を推進してまいりました。当上半期を転換点とし、今後持続的に成長していけるよう、一層の経営努力をしてまいります。

このような業績とビジネスの状況を踏まえ、通期の利益予想および期末配当予想を上方修正いたしました。期末配当金については、当初予想の31円から6円増額し37円としています。これにより当連結会計年度の年間配当金は

68円(前年比+10円)を予想しております。

新たなステージで持続的な成長に 向けて邁進

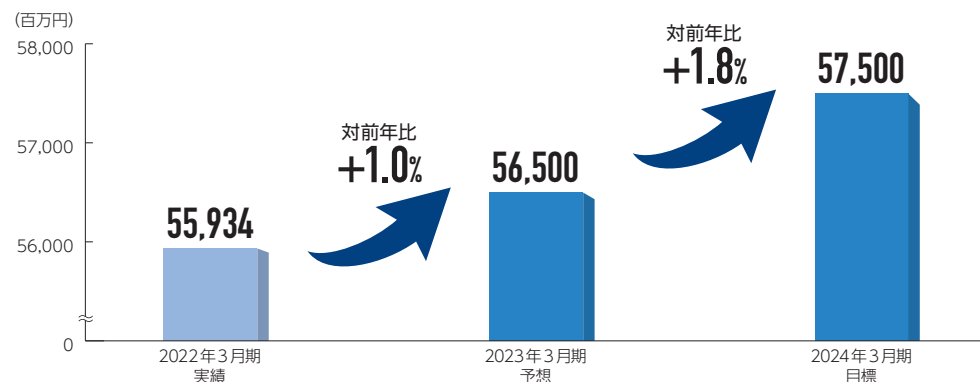
来年2月に本社を東京・八重洲(東京ミッドタウン八重洲)に移転いたします。新たな場所で、これまで以上にお客様に寄り添い、「HARMONIZE」のブランドメッセージである「一番欲しい」を最速での下、お客様が「一番欲しい」と望むものを素早くご提供できるDXパートナーとして、さらに成長を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

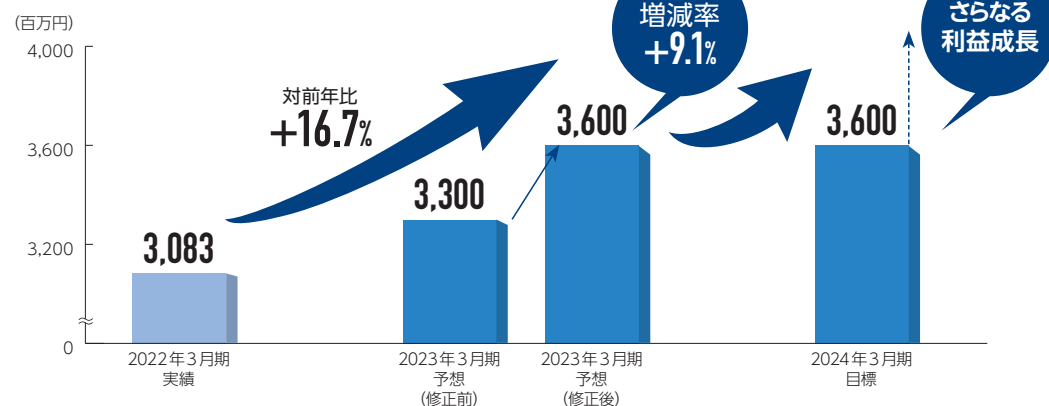
中期経営計画「HARMONIZE 2023」進捗状況

2023年3月期は、3カ年の中期経営計画「HARMONIZE 2023」の2年目となります。当上半期は、昨年度から引き続き4つの注力事業（超高速開発、クラウド、セキュリティ、クラウドデータ連携）が順調に進捗しました。この注力事業の進捗により、売上高は前年同期比でプラス成長となり、営業利益も2桁成長となりました。この結果を踏まえ、今期の利益予想を上方修正いたしました。

売上高



営業利益



注力事業のビジネス状況

		2022年3月期 上半期	対前年 同期比	2023年3月期 上半期	2024年3月期 目標
超高速開発	SI全体に占める 超高速開発比率	53%	+8pt	61%	比率 70%
	売上高	2,716百万円	+33%	3,613百万円	
	受注高	2,890百万円	+60%	4,623百万円	
クラウド	売上高*	1,396百万円	+61%	2,250百万円	CAGR 46%
	新規受注高*	68百万円/月	+10%	75百万円/月	
セキュリティ	売上高*	1,205百万円	+46%	1,756百万円	CAGR 42%
	新規受注高*	47百万円/月	+38%	65百万円/月	
クラウドデータ連携	累計契約本数	250本	+412%	1,279本	10,000本

*クラウドおよびセキュリティの売上高・新規受注高はストック

注力事業の成長要因

超高速開発	超高速開発センターの設立(2021年10月)により、グループ全体での開発体制を強化し、再利用可能なアセット・部品の活用により生産性が向上しました。この結果、注力事業である超高速開発の受注拡大と利益率向上に貢献しております。
クラウド	クラウドの利用・定着化支援サービスで、お客様の既存のシステム投資額と比較してクラウドコストを平均30%削減可能にする提案を行っています。このサービスをお客様から高く評価いただき新規受注高/売上高の拡大につながりました。
セキュリティ	お客様のクラウド利用浸透に伴い、クラウドセキュリティ分野が着実に伸長しました。企業にとって大きな脅威となるサイバー攻撃に対し、セキュリティインシデント対応の重要性を訴求する提案を強化し、継続してビジネス拡大をしております。
クラウドデータ連携	従来のSaaS間のデータ連携に加え、新たに適応領域としたIoT機器とのデータ連携案件(電子錠等)の獲得を背景として、着実に伸長しました。

超高速開発

企業の基幹システムを
1/2*の開発期間で高品質に提供

当社独自の開発手法「JBアジャイル」と開発ツールを組み合わせ、高速なシステム開発を実現しています。お客様の要件を十分に確認した上で、開発単位を細分化し、実際に動くもので内容を確認しながら開発を進めることで手戻りの発生を最小限に抑えることが可能です。これまで440社を超えるお客様への開発実績のアセット(再利用可能な部品)の活用も進んでおり、速く、品質の高いシステムをお客様に提供しています。継続して開発体制を強化し、さらに多くのお客様に超高速開発の価値をお届けしていきます。

クラウド

運用コスト30%削減を可能に
クラウドの活用・定着を徹底支援

お客様の悩みや課題に寄り添い、クラウドの利活用や定着を支援する独自の無料コンサルティングサービスを提供しています。お客様のクラウドに対する一番の課題である“コスト削減”に着目し、既存のシステムへの投資額から平均30%コストを削減してクラウドへの移行を可能にする等、マルチクラウドに対する高いスキルと豊富な実績で、お客様のクラウド活用を推進しています。業務課題・テーマ別のワークショップも実施しており、提案から運用、その後の定着まで、お客様のクラウド活用をトータルでサポートしています。

セキュリティ

マルチクラウドセキュリティに強み
24時間365日、安心・安全を提供

サイバー攻撃による被害は後を絶たず、クラウドの活用や働き方の変化に応じた全方位でのセキュリティ対策が不可欠です。

J Bグループでは、お客様のシステム環境のセキュリティリスクや課題を可視化する診断サービスを入口に、お客様ごとに最適なセキュリティ対策をご提案しています。「HARMONIZE」でのクラウドの豊富な構築実績や知見を基に、様々なクラウドの特長をとらえたクラウドセキュリティ対策でお客様の安心・安全なクラウド運用を支えています。

クラウドデータ連携

様々なサービスやシステムを“つなぐ”
簡単にデータの利活用を実現

クラウドの利用が浸透し、多くの企業で便利なクラウドサービス(SaaS)の業務への活用が進んでいます。J Bグループが提供する「Qanat Universe(カナートユニバース)」は、SaaSや社内のシステム等を簡単に“つなぐ”連携プラットフォームです。複数のサービスやシステムがつながることで、システムへの二重登録等の手間を省き、業務の効率化を実現します。センサー等のIoT機器との連携も拡大しており、電子錠と勤怠システムの連携に採用される等、市場に新たな価値を創出しています。

HARMONIZEが提供する10のソリューションとサービス

ビジネスモデル
変革支援

お客様のビジネスモデル
変革を一貫してご支援

バリュークリエイト
サービス

共創サービス

業務変革ソリューション

お客様の業務変革を、
最適なソリューションでスピード実現

超高速開発

SaaS

デジタル業務
ソリューション

クラウド連携
ソリューション

プラットフォーム変革
ソリューション

お客様のインフラ変革を、
最適コストでおまかせ構築

IaaS

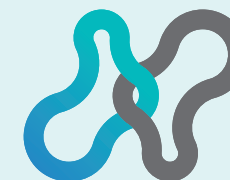
セキュリティ

コラボレーション
サービス

お客様との統一窓口で、
役立つ情報をご提供

ポータルサービス

コミュニティ



HARMONIZE
by JB Group

“一番欲しい” を最速で

期間1/2*で実現する基幹システム、鉄壁のフルクラウド
ビジネス変革を最速で実現するのは「HARMONIZE」。

あなたのDXに技術と熱い想いで共に挑みます。

*2014年～2020年に実施した大型基幹システム(開発期間10か月以上)の他社見積もり期間との比較平均値

株式会社モンテール様 超高速開発

業務に即した販売管理システムを JBアジャイルで実現

株式会社モンテール様は、「おやつ時間のワクワクをお届けする」をコンセプトに、鮮度の高い美味しいチルドデザートの製造・販売を日本全国で展開されています。

これまで、オフコンで販売管理システムを稼働していましたが、商品を短期間で入れ替えるなど、ビジネスの変化に柔軟に対応できる仕組みを目指し基幹システムを刷新されました。

JBCCは独自の開発手法であるJBアジャイルで、業務部門の要望を反映しながら実業務に即したシステムを構築し、出荷業務を約60時間/月削減するなど業務の効率化を実現しました。また、お客様自身でシステムを保守、改修していく体制づくりも支援し、オンラインで受注した商品を即日製造・出荷する日配業を支える、柔軟かつスピード感を備えた販売管理システムを実現しています。

JBグループ公式YouTube

モンテール様の声を
動画で公開中 >>



Voice

私たちの超高速開発で お客様の期待を超えたい

競争が激しい業界において、業務に合ったシステムを素早く実現したいと、JBCCの超高速開発を採用いただきました。プロジェクトマネージャーとして、モンテール様のシステム部門、現場部門の方たちの声を聞き、一緒になって作り上げたシステムです。今は本稼働を迎え、お店に並ぶモンテール様の商品を見ると嬉しくなります。

JBCC株式会社
SI事業部
超高速開発センター
おにし ともこ
大西 倫子さん



新日本製薬 株式会社様 セキュリティ

ゼロトラストで事業を加速する 攻めのセキュリティを実現

新日本製薬 株式会社様は、スキンケアの基幹ブランド「PERFECT ONE」を中心に、美と健康をサポートする商品を提供されています。主力である通販事業においてお客様の個人情報を守るため、外部から社内業務用のネットワークに直接接続できない構造でセキュリティ対策を行っていましたが、一方でクラウドサービスの利用に制限があり、活用しづらいという課題をお持ちでした。

JBCCは新たなセキュリティとしてゼロトラスト*への移行を支援し、ネットワークに接続するパソコンやスマホ等、全ての端末やアプリケーションに対して認証を要求する仕組み(SASE)を構築しました。セキュリティを担保しつつ、利便性が高いクラウド活用を可能にし、幅広い選択肢で事業を加速する攻めのセキュリティを実現しています。

*ゼロトラスト:社内も社外も“何も信頼しない”を前提に対策を講じるセキュリティ

JBグループ公式YouTube

新日本製薬様の声を
動画で公開中 >>



Voice

安心できるセキュリティ対策で、 事業の成長を更に加速して頂く

新日本製薬のご担当者様は、セキュリティにも詳しく、「現状をこう変えていきたい」という明確なビジョンをお持ちでした。私たちはIT、セキュリティのプロとしてその想いを優先順位を決め具体化していくお手伝いをさせていただきました。今後も、新日本製薬様が事業の成長を更に加速して頂くために、安心頂けるセキュリティ対策を目指します。

JBCC株式会社
セキュリティサービス
事業部
リスクアセスメント担当
こばやし せいじ
小林 聖司さん



持続的な社会を実現するサステナビリティへの取り組みについてご紹介します



#deleteC大作戦に参画 Webアプリ提供でがん治療研究を応援

“みんなの力で、がんを治せる病気にする”プロジェクト、deleteC(デリート・シー)の活動趣旨に賛同し、9月3日から30日迄実施された#deleteC大作戦に参画しました。

#deleteC大作戦は、TwitterやInstagramに賛同企業の商品やロゴの「C」の文字(がん:Cancerの頭文字)を消した画像を投稿・拡散することで、がん治療研究の寄付・啓発につながる活動です。

多くの方が気軽に活動に参加できよう、JBグループは画像内の「C」をAI(人工知能)が検知して自動で消すWebアプリを開発・無償公開し、活動を盛り上げました。今後も“JBグループらしい”取り組みで、明るく、カジュアルに社会に貢献していきます。

deleteC代表理事 小国士朗氏(右)と当社社長 東上との対談記事を公開しています。

<https://www.jbcchd.co.jp/lp/deletec/>



ウクライナへの人道支援 として寄付を実施

ウクライナで被災された方々および近隣諸国へ避難された方々への人道支援として、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) および国連児童基金 (UNICEF) 等にHARMONIZEの売上より毎月百万円の寄付とともに社員の募金による支援も実施しています。寄付金は、ウクライナ国内外で避難を強いられている方々へ救援物資や避難所を提供するなど、人々の命と安全を守るための緊急支援に充てられます。この深刻な事態が一刻も早く収束し、ウクライナおよび世界に平和で安全な日々が戻りますことを、心より願っています。

人財への取り組み

一人ひとりの“挑戦”する気持ちを育む 社内起業で新規事業を立ち上げ

新たな価値を創造し、成長する企業グループを目指し、JBグループは今年度のグループ方針で「日々新たに挑戦」を掲げています。仲間と共にアイデアを出し合い、社員一人ひとりが“挑戦”していく気持ちを育みたく、新たに社内起業制度をスタートしました。

グループ各社から集まった10を超える“挑戦”の中から、社内起業第一号として、AI技術による画像診断サービス事業「イノベース」が始まります。志を共にするメンバーが集い、それぞれの経験や得意技をいかして、次代の会社の成長の種になることを目指して新規事業の立ち上げに挑戦しています。



社内起業「イノベース」(JBCC株式会社)
独自のAIエンジンで、お客様の仕事に気軽に活用できるAIサービスの提供に取り組めます。

写真左から: たかま ゆうじ 高浜 祐二さん こんどう あやか 近藤 綾華さん やまざき たくみ 山崎 拓己さん

当社ホームページでサステナビリティの取り組みについて紹介しています>> <https://www.jbcchd.co.jp/sustainability/sdgs/>



株主様Webアンケートに数多くのご意見をお寄せいただき ありがとうございました

Webアンケートにお寄せいただいた貴重なご意見は、今後の経営やIR活動の参考にさせていただきます、さらなる成長と企業価値の向上を目指してまいります。

回答方法: 環境への配慮から、Web回答のみに変更しました
実施期間: 2022年6月21日~7月22日
回答人数: 428名



会社概要 (2022年9月30日現在)

社名	J B C Cホールディングス株式会社 (JBCC Holdings Inc.)
本社所在地	〒144-8721 東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイアロマスクエア
設立年月日	1964年4月1日
資本金	47億13百万円
グループ社員数	2,003名 (有期社員を含む連結ベース)
ホームページ	https://www.jbcchd.co.jp/ir/

SNS



Twitter

<https://twitter.com/jbcchd>

社長Twitter

<https://twitter.com/higashiuejbcc1>



Facebook

<https://www.facebook.com/jbcchd>



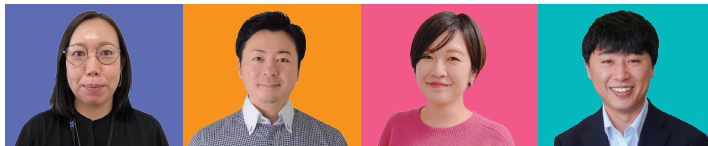
YouTube

<https://www.youtube.com/jbcchd>

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月に開催
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 電話 042-204-0303 (通話料有料) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日等を除く) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告掲載URL	https://www.jbcchd.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じた時には、 日本経済新聞に公告いたします。)

編集後記 私たち経営企画では、株主の皆様へ当社の魅力をお伝えすることで「当社をもっと好きになってもらいたい」という思いでこの株主通信を制作しました。お客様のDXを実現する事業の取り組みもさることながら、社員がいそいそと働く様子を感じていただけたら嬉しいです。



企画/制作: JBCCホールディングス株式会社 経営企画

お知らせ

株券電子化後、配当金の口座振込のご指定は配当金振込指定書を各口座管理機関(証券会社など)を経由してお届けいただくこととなりました。振込指定の詳しいお手続きにつきましては、お取引先のある口座管理機関にお問い合わせください。

JBCCホールディングス株式会社

決算などの財務情報に関するご質問は

e-mail : ir@jbcc.co.jp

